

公園の風景

= 水槽のそうじ屋さん =

ビクターセンターの玄関ドアを入ると左側に置かれている大きな水槽。2011年に設置されて以来、公園周辺の井関川や土路石川から採取されたカワムツ、ギンブナ、シマヨシノボリ、又マムツなど11種類の川魚が生活している。最近この水槽の内側の壁や設置してあるガラスの内側にコケがびっしり繁茂して、水槽内外の視界がボヤケ始めていた。これでは魚たちが可哀相、また来館者にも充分観察してもらえないことを心配した公園では、5月初旬、園長自ら土路石川の河口でイシマキガイ230個余を捕獲して水槽に投入。するとイシマキガイたちはせっせと水槽内のコケを食べはじめ、投入3日後には水槽前面のガラスがすっかりきれいになった。その後もイシマキガイたちは水槽内の掃除に励み、現在水槽内は以前の透明度を100%取り戻し、魚たちが元気に泳ぎ回る姿を楽しむことができるようになった。



= アキグミの木を丸坊主にするのは =

梅雨が明けた7月の公園は灼熱の太陽にさらされてひっそりしています。淡水池では生き物たちの姿もほとんどなく、いつもの食いしん坊のアオサギが一羽浮島に止まって水面を見張っているばかり。

池の周りに生えているアキグミの木に黒いものがたくさんくっついている！と思ったら、大量のカナブンの群れでした。樹液が目的のはずですが、なぜか葉もチリチリにやられています。アキグミの葉はおいしいのでしょうか。こんなに丸坊主にされては、鳥たちが当てにしている実のほうは期待できないかもしれません。

= ミサゴの人工巣台 =

公園の東側に建設されたミサゴのための人工巣台は、未だ入居者の無いままに真夏の射光の中、人待ち顔に佇んでいる。たまにミサゴやカラスがテッペンに止まり、食事をしたり羽を休めたりしているのを観ることがあるが、いつも素っ気なく飛び去る。レンジャーたちは「来年の繁殖期には入居者が現れるだろう」と長期戦の構えだが、繁殖期を迎えたミサゴの夫婦がいそいそと抱卵、育児を始める姿が見られる日を心待ちにしている人も多いだろう。楽しみだなあ。